

柏原市小中学校 今後の教育環境について

令和7年11月12日
柏原市教育委員会

柏原市教育委員会では、今後も少子化が続くことが見込まれますことから、児童・生徒数や学級数の減少に対応しながら教育環境の維持向上を図るため、学校の適正規模・適正配置に関する検討を進めています。

令和9年度に予定しております「柏原市立小・中学校適正規模適正配置基本方針」の見直しに向けまして様々な意見を伺うため、令和6年度には、市内全小中学校の保護者、市民モニターにアンケートを実施いたしました。令和7年度は、各地域で説明会を開催し、皆さまのご意見をお伺いしながら、地域の実情を踏まえた教育環境について考えてまいります。

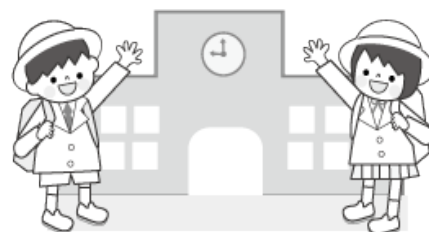
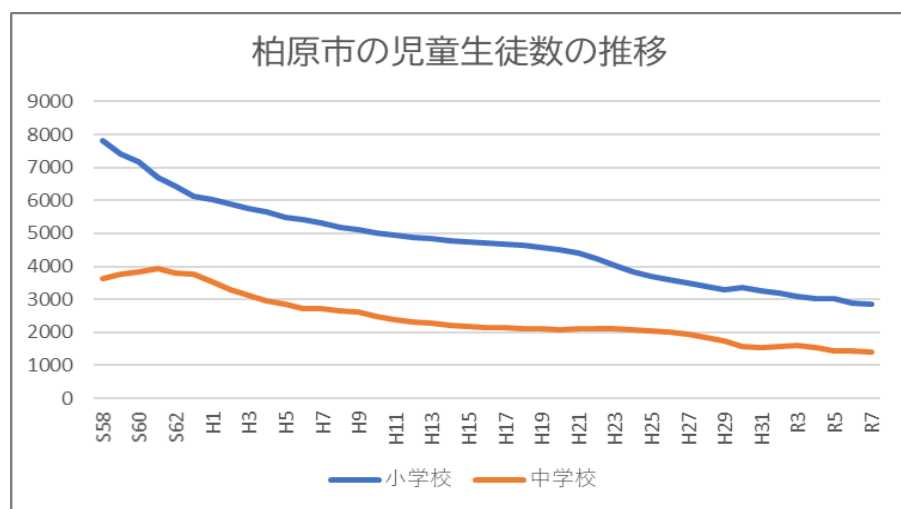
適正規模・適正配置の必要性

適正な学校規模を確保することは、良好な教育環境の維持や教員の指導体制の充実だけではなく、学校を円滑に運営するためにも重要です。

文部科学省の手引(平成27年1月)では、以下のような基準が示されています。

小学校では、1学年2学級以上(学校単体で12学級以上)
中学校では、1学年3学級以上(学校単体で 9学級以上) が望ましい。
ただし、特別な事情がある時はこの限りではない。

こうした考え方を踏まえながら、柏原市では、5年毎に教育環境を見直しています。



	昭和60年	平成17年	令和7年
	1985年	2005年	2025年
小学校	7159人	4689人	2843人
中学校	3832人	2158人	1458人

令和7年度 市立小・中学校の児童生徒数・学級数(5月1日時点) ※桜坂小中学校を除く

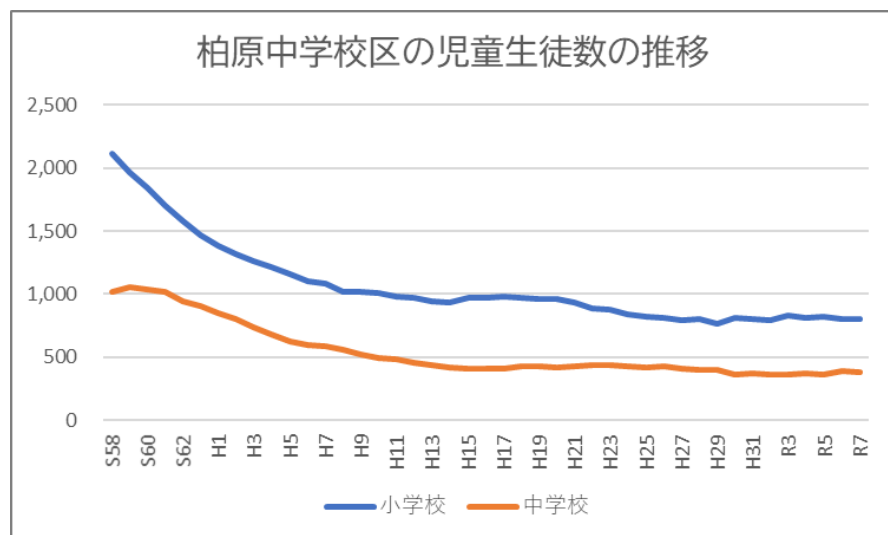
小学校名	柏原	柏原東	堅上	国分	堅下	堅下北	堅下南	玉手	旭ヶ丘
児童数	517	287	56	573	382	253	252	269	251
学級数	17	12	6(5)	19	12	9	10	10	10

中学校名	柏原	堅上	国分	堅下北	堅下南	玉手
生徒数	379	28	302	271	138	285
学級数	11(10)	3	9	9	6(5)	9

※網掛けをしている堅上小・柏原中・堅下南中は国基準(小学校1学級35人以下、中学校1学級40人以下)と異なる学級編制。国基準での学級設置としては()内の数。

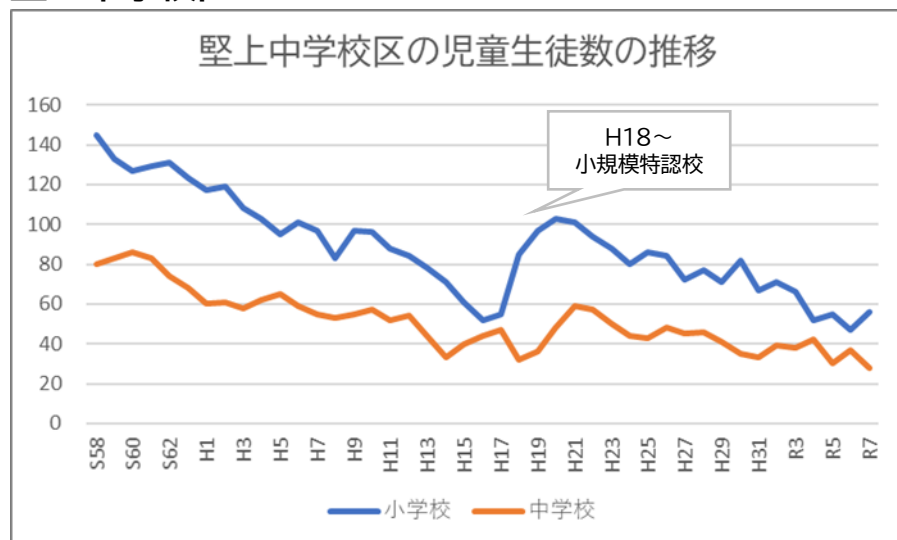
※堅上小学校・中学校は平成18年度～「小規模特認校」として柏原市内全地域より児童生徒を募集。

柏原中学校区



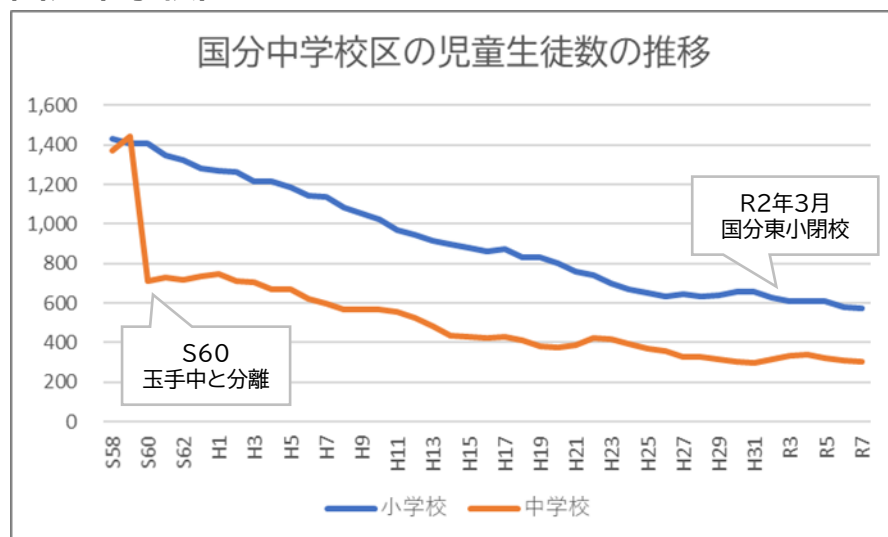
	昭和60年	平成17年	令和7年
	1985年	2005年	2025年
小学校	1843人	968人	804人
中学校	1041人	411人	379人

堅上中学校区



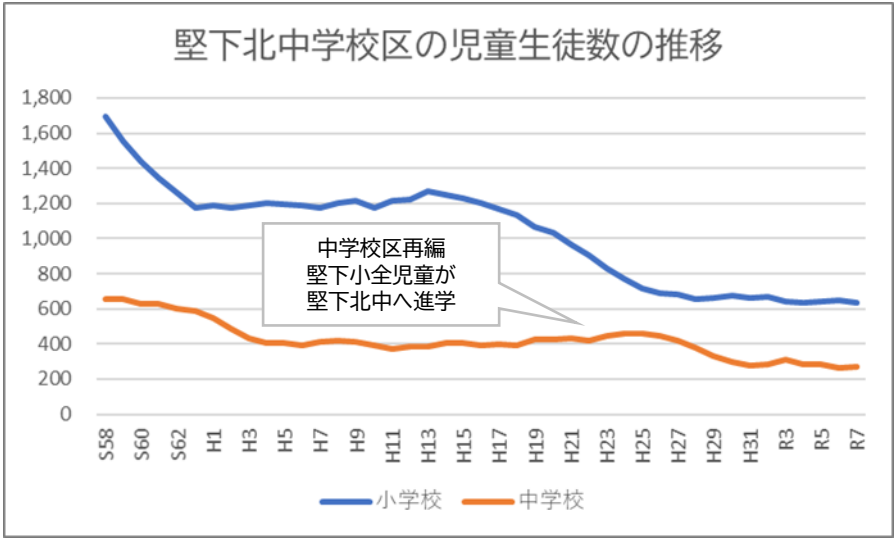
	昭和60年	平成17年	令和7年
	1985年	2005年	2025年
小学校	127人	55人	56人
中学校	86人	47人	28人

国分中学校区



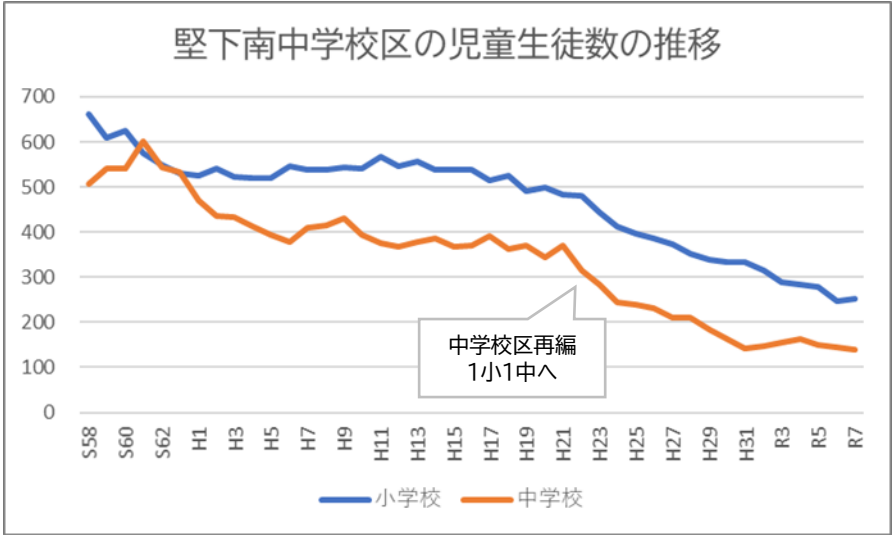
	昭和60年	平成17年	令和7年
	1985年	2005年	2025年
小学校	1407人	875人	573人
中学校	713人	432人	302人

堅下北中学校区



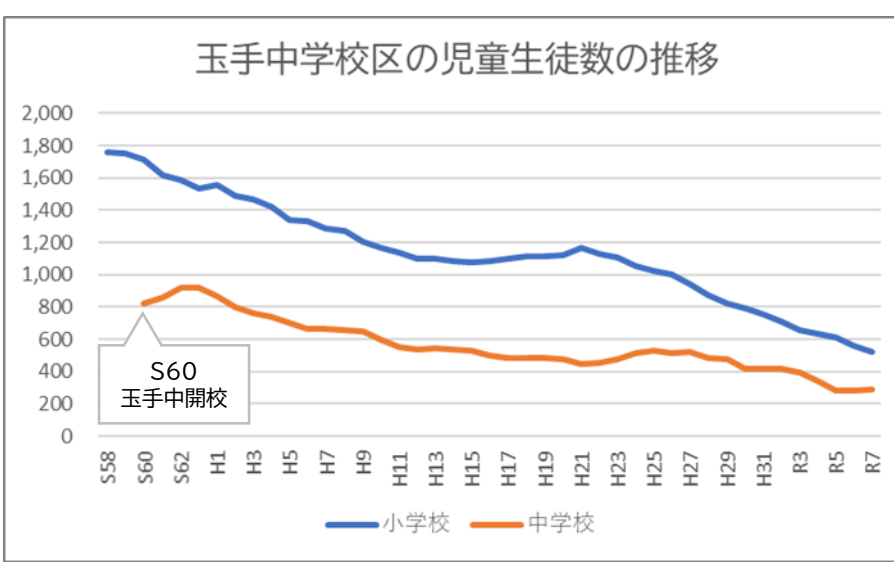
	昭和60年	平成17年	令和 7 年
	1985年	2005年	2025年
小学校	1440人	1166人	634人
中学校	629人	398人	271人

堅下南中学校区



	昭和60年	平成17年	令和 7 年
	1985年	2005年	2025年
小学校	626人	514人	252人
中学校	540人	392人	138人

玉手中学校区



	昭和60年	平成17年	令和 7 年
	1985年	2005年	2025年
小学校	1716人	1102人	520人
中学校	823人	481人	285人

令和17年度の児童数・生徒数・学級数の推測値※令和17年度は中学校も1学級35人以下として試算

柏原小	506名	18学級
柏原東小	243名	12学級
堅上小	応募状況による	
国分小	442名	12学級
堅下小	312名	12学級
堅下北小	192名	6学級
堅下南小	147名	6学級
玉手小	137名	6学級
旭ヶ丘小	132名	6学級

柏原中	321名	9学級
堅上中	応募状況による	
国分中	229名	9学級
堅下北中	254名	9学級
堅下南中	100名	3学級
玉手中	208名	6学級

【今後の予定】

令和7年度

9～11月 各小学校(一部の地域は小中合同)の健全育成会にて説明

2月末まで 意見の受付

令和8年度

5月 適正規模・適正配置審議会 諮問 / 9月 中間答申 / 2月 答申

令和9年度

5月 パブリックコメント / 6月 適正規模適正配置基本方針 策定

	小規模校のよさ	学校小規模化にともなう課題
教育環境	・一人ひとりの活躍する機会が多い。 ・相互の人間関係が深まる。 ・異学年間の縦の交流が活発に行える。	・多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会が少なくなる。 ・クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい。 ・集団教育活動に制約が生じる。
指導体制	・指導が行き届きやすく、きめ細かな指導を行える。 ・教材、教具が一人ひとりに行き渡る。	・配置される教職員数が少なくなり、多様な学習・指導形態を取りにくい。
学校運営	・教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になる。 ・保護者や地域社会との連携を密に図ることができる。	・児童生徒一人あたりにかかる経費が大きくなる。(校外学習のバス代等) ・PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなる。

「子どもたちにとってのより良い教育環境とは」といった観点で、地域の皆さまのご意見をお聞かせください。(令和8年2月末まで)

ご意見はこちらまで

柏原市教育委員会学務課

メール gakumu@city.kashiwara.lg.jp

FAX 072-940-6120

